鈴鹿医療科学大学微生物取扱安全管理規程

第１章 総則

（目的）

第１条　この規程は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等（厚生労働省）及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症の病原体等の管理規制の周知について（通知：文部科学省）に基づき、鈴鹿医療科学大学（以下「本学」という）における微生物を用いる研究および教育が安全かつ適切に行われるよう微生物の取り扱いに関する必要事項を定め、安全の確保を図ることを目的とする。

（定義）

第２条　この規程における用語の定義は、それぞれ次の各号に定めるところによる

（１）「微生物」とは、ウイルス、マイコプラズマ及び細菌、真菌、および寄生虫をいう（別表１付表）。

（２）「実験」とは、研究・教育のために微生物を扱う実験、実習をいう。

（３）「教員等」とは、本学施設内において研究・教育のために微生物を取り扱う教員、研究員、研究生、大学院生、学部学生、その他学長が認めた者をいう。

（４）「指定実験室」とは、微生物を取り扱う施設をいう。

（５）「実験室責任者」とは、指定実験室を管理し、安全性について責任を負う者をいう。

（６）「実験責任者」とは、微生物を扱う研究や教育における実験計画の遂行について責任を負うものをいう。

（７）「指導教員」とは、研究員、研究生、大学院生、学部学生が微生物を取り扱う場合に指導を行う教員をいう。

（遵守義務）

第３条　教員等は、本規程の定めるところによらなければ微生物を取り扱うことはできない。

２　教員等は、指定実験室で微生物を取り扱う場合は、本規程に適合する方法によるものとする。

３　研究生、大学院生、学部学生が取り扱う場合は指導教員の指導のもと取り扱うこと。

第２章 安全管理体制

（委員会の設置）

第４条　本学に、微生物取り扱い安全管理委員会（以下「委員会」という）を置く。

２　委員会に関する規程は別に定める。

（指定実験室）
第５条　指定実験室は、別表２に定める安全設備に基づきＰ１及びＰ２に区分する。
２　指定実験室には、実験室責任者を置かなければならない。
３　微生物の取り扱いは、微生物のレベルの分類及び取扱基準（別表１、２）に定める指定実験室で行わなければならない。
４　前項の規程にかかわらず、鈴鹿医療科学大学遺伝子組換え生物安全管理規程に基づき登録された、Ｐ２レベルの実験室を、レベル２の実験室として使用することができる。

（指定実験室の認定）
第６条　前条第１項に定める指定実験室の設置を希望する場合、実験室責任者は、様式１－１により委員会に申請し認定を受けなければならない。
また、承認を受けた指定実験室の内容に変更がある際は、様式１－２を提出し承認を受けなければならない。
２　指定終了（中止）の場合、実験室責任者は、様式１－３を委員会に提出しけなければならない。

（指定実験室の標示）
第７条　指定実験室の出入口には、様式２に定める国際バイオハザード標識、認定されたＰレベルと実験室責任者を標示しなければならない。

第3章 安全管理基準

（微生物のレベル）
第８条　微生物のレベルは、別表１付表に定める微生物レベルに従う。

（実験室の安全設備及び使用）
第９条　実験室は、用いる微生物の病原性のレベルに応じ、別表２に定める基準に従って必要な設備を備えなければならない。
２　実験責任者は、実験室責任者の許可を得て、指定実験室を使用しなければならない。
３　指定実験室の使用にあたっては、別表２の定める実験要項を遵守しなければならない。
４　白子キャンパスＰ２共同利用実験室を運営のため、共同実験室の使用取決めを作成する事ができる。

（安全設備の整備点検）
第１０条　実験室責任者は安全設備を定期的に整備点検し、その記録を残さなければならない。但し、共同利用施設等で各使用区画の実験責任者が行うことが安全管理上妥当である場合は、実験責任者が行い実験室責任者に報告するものとする。
２　実験室責任者は、整備点検結果について、委員会に報告しなければならない。

（微生物の保管）

第１１条　実験責任者は微生物の保管について、様式３－１により委員会に届けなければならない。また、保管内容を変更する場合、様式３－２を委員会に提出しけなければならない。

２　微生物の保管場所は、当該微生物を用いて実験を行う指定実験室、またはそれと同等の安全基準を満たした部屋でなければならない。

３　微生物の保管容器は、施錠できるものでなければならない。

４　微生物の保管場所及び保管容器からの出し入れの状況は、記録して置かなければならない。

５　生物テロや事故による感染症の発生・まん延を防止するための病原体等に該当する微生物を扱う場合は、感染症法及び省令の規定（病原体等に応じた施設基準、保管、使用、運搬、滅菌等の基準（厚生労働省令）等）を遵守しなければならない。

（病原性微生物等の運搬）

第１２条　病原性微生物等の運搬については、特定病原体等の運搬の基準に準拠した、三重包装の容器を用いて運搬しなければならない。

２　特定病原体等の運搬については、感染症法及び省令の規程に基づく運搬の基準、厚生労働省告示で定める特定病原体等の運搬に係る容器等に関する基準及び厚生労働省が定める特定病原体等の安全運搬マニュアルの基準に従わなければならない。

（実験実施の承認）

第１３条　実験責任者は、実験室責任者の許可を得て、様式４−１または様式４−２により、委員会に届け出て、実験実施の承認を得なければならない。また、承認を受けた実験内容に変更がある際は、様式４−３を提出し承認を受けなければならない。但し、学生実験対象学生の変更は、様式４−４の提出をもって足りるものとする。

２　実験申請者は本学の教員に限る。

３　実験を終了（中止）する場合、実験責任者は様式４−５を委員会に提出しけなければならない。

（微生物の滅菌及び汚染除去）

第１４条　微生物（これらに汚染されたと思われるものを含む）は、当該微生物に有効な消毒滅菌方法に従い処理しなければならない。

（事故）

第１５条　次の各号に掲げる場合は、これを事故として取り扱うものとする。

（１）　教員等が、取り扱っている微生物に直接間接に汚染されたことが明らかな場合

（２）　医療機関における検査の結果、教員等が扱っている微生物に感染していることが判

明した場合

（３） 安全設備の機能に重大な欠陥が発見された場合、及びその使用において十分な機能が発揮されていないことが明らかになった場合

（４） 何らかの理由による微生物逸出のため、指定実験室外が汚染されたと疑われる場合

（５） 地震や火事などの災害時

（事故の処理）

第１６条　事故を起こした者及び事故に気付いた者は、遅滞なく実験責任者及び実験室責任者に連絡しなければならない。

２　実験責任者及び実験室責任者は、速やかに所要の応急処置を講じるとともに、委員会に通報しなければならない。

３　前項の応急措置とは、次の各号に揚げるものとする。

（１） 被汚染者の処置に関すること

（２） 危険区域の指定に関すること

（３） 微生物逸出の防止対策に関すること

（４） 汚染防止並びに汚染された場所及び物の処置に関すること

（５） 危険区域の調査及び危険区域の解除に関すること

４　委員会は、必要があると認める場合は、当該指定実験室あるいはその周辺を含め、一定の期間使用禁止を命ずることができる。

５　委員会は、前項3と４の措置をとった場合は、学長に報告すると共に、必要に応じて、事故の程度、内容、危険区域及び事故処理の内容等を、速やかに全学に周知しなければならない。

６　委員会は、安全が確認され次第、当該指定実験室等の使用禁止を解除し、必要に応じて全学にその旨通知する。

（健康診断）

第１７条　委員会は、必要と認める場合、微生物を扱う実験等に従事する教員等に、健康診断を受けさせることができる。

２　学長は、委員会の要請に基づき、学内教職員及び学生等で、学内で取り扱う微生物によって感染を受けた疑いがあると認められる者に対し、医療機関での健康診断を受けさせることができる。

（健康診断後の措置）

第１８条　学長は、健康診断の結果、学内で取り扱う微生物による感染が疑われる場合もしくは判明した場合、直ちに学内（必要に応じて学外を含む）の安全確保のための措置

を講じなければならない。

第4章 その他

（細則）

第１９条　この規程に定めるもののほか、実施に必要な事項は別に定める。

（事務局）

第２０条　この規程に関する事務は、大学事務局研究振興課において取り扱う。

（規程の改廃）

第２１条　この規程の改廃は、委員会が発議し、大学協議会の議を経て学長が決定する。

附則

この規程は、平成１９年１２月２０日から施行する。

附則

この規程は、平成２６年３月１７日に改正し、施行する。

附則

この規程は、平成２７年３月１８日に改正し、施行する。

附則

この規程は、平成２７年７月２１日に改正し、施行する。

附則

この規程は、令和３年１０月２６日に改正し、施行する。

附則

この規程は、令和６年９月１７日に改正し、施行する。

別表１
微生物のレベルの分類および取り扱い基準

通常の量の微生物を用いて試験管内で実験を行う場合の微生物レベル（ヒトへの病原性）および取り扱いについては，ヒトへの病原性の観点から，以下の基準によるものとする。

レベル１
ヒト又は動物に重要な疾患を起こす可能性のないもの。
Ｐ１以上の安全設備を有する指定実験室で取り扱う。

レベル２
ヒト又は動物に病原性を有するが, 実験室その他の職員等, 家畜等に対し, 重大な災害となる可能性が低いもの。
Ｐ２以上の安全設備を有する指定実験室で取り扱う。

レベル３
ヒトに感染すると通常重篤な疾病を起こすが，一つの個体から他の個体への伝播の可能性は低いもの。
Ｐ３以上の安全設備を有する指定実験室で取り扱う。

レベル４
ヒト又は動物に重篤な疾病を起こし，かつ，罹患者から他の個体への伝播が，直接又は間接に容易に起こり得るもの。有効な治療及び予防法が通常得られないもの。
Ｐ４の安全設備を有する指定実験室で取り扱う。

注：
① 国内に常在しない疾患等の病原体となる微生物については，当該微生物より病原性の高い微生物と同等のレベルに分類する場合がある。
② 臨床診断等からレベル３から４までの微生物への感染があったことが疑われ，かつ，この微生物を分離等の目的で増殖させる場合には，当該微生物のレベルで取り扱うものとする。
③ ベクターを介さないと伝播し得ない微生物については，実験内容，地域性を考慮しレベルを変更できるものとする。
④環境試料については，飛散やエアロゾル発生のおそれが無ければＢＳＬ１として扱うものとし，実験等により微生物等の有無，名称等が明らかになった場合は，その微生物のレベルに応じた措置を講じ，取り扱うこととする。ただし，採取地・採取時期，感染症の発症の有無，動物種等の状況により，汚染されているおそれや，飛散またはエアロゾル発生のおそれがある場合はＢＳＬ２として取り扱うものとし，ＢＳＬ３以上の微生物等が内在されていることが疑われるときは，本学で取り扱うことはできない。

別表１ 付表
別表１に定める基準により、微生物のバイオセーフティレベルを、下記のごとく分類する。ただし、ここに挙げられていない病原性微生物については個別に考慮するとともに、最新の知見に基づき分類の変更、あるいは、新たな微生物の追加が必要とされた場合には、これを適宜行うこととする。また、媒介節足動物を用いる実験の場合は別途個別に考慮する。

微生物のレベル分類

１．ウイルス

（ウイルス名は”Virus Taxonomy, Report of the International Committee on Taxonomy of Viruses,2005”の表記を用いた。科、属、種の順に記載した。）

なお、ここに記載されていないウイルスについては個別に考慮するものとする。）

・レベル１

Live Vaccine Virus （Vaccinia, Rinderpest vaccine を除く）

Adeno-associated virus

・レベル２

Adenoviridae

Mastadenovirus

Canine adenovirus *(infectious canine hepatitis virus)*

Human adenovirus A

Human adenovirus B

Human adenovirus C

Human adenovirus D

Human adenovirus E

Human adenovirus F

Murine adenovirus A

Simian adenovirus

Arenaviridae

Arenavirus

Lymphocytic choriomeningitis virus [4)]

Arteriviridae

Arterivirus

Lactate dehydrogenase-elevating virus (LD V)

Astroviridae

Mamastrovirus

Human astrovirus

Bomaviridae

Bomavirus

Barna disease virus

Bunyaviridae

Orthobunyavirus

Bunyamwera virus

California encephalitis virus

Simbu virus

Caliciviridae

Norovirus

Norwalk virus

Sapovirus

Sapporo virus

Vesivirus

Feline calicivirus

Coronaviridae

Coronavirus

Human coronavirus 229E

Human coronavirus OC43

Human coronavirus NL63

Bovine coronavirus

Canine coronavirus

Feline infectiousperitonitis virus

Infectious bronchitis virus (Avian infectious bronchitis virus)

Murine hepatitis virus[1)*]

Porcine epidemic diarrhea virus

Rat coronavirus

Sialodacryoadenitis virus

Transmissible gastroenteritis virus

Flaviviridae

Flavivirus

Apoi virus

Aroa virus

Dengue virus

Ilheus virus

Japanese encephalitis virus （at, m, ML-17, S株を除く）

Langat virus

Rio Bravo virus

Yokose virus

Hepacivirus

Hapatitis C virus

Unassigned

Hepatitis G virus

Hepadnaviridae

Orthohepadnavirus

Hepatitis B virus

Hepeviridae

Hepevirus

Hepatitis E virus

Herpesviridae

Cytomegalovirus
Human herpesvirus 5
Ictalurivirus
Caviid herpesvirus 1 (Guinea pig herpesvirus)
Lymphocryptovirus
Cercopithecine herpesvirus 12 (Herpes virus papio)
Human herpesvirus 4

Rhadinovirus
Human herpesvirus 8
Saimiriine herpesvirus 2
Roseolovirus
Human herpesvirus 6
Human herpesvirus 7
Simplexvirus
Cercopithecine herpesvirus 16 (Herpes virus papio 2)
Human herpesvirus 1
Human herpesvirus 2
Varicellovirus
Felid herpesvirus 1 (Feline viral rhinotracheitis virus)
Human herpesvirus 3
Suid herpesvirus 1 (Pseudorabies virus)
Orthomyxoviridae
Alphainfluenzavirus
Influenza A virus （H5N1またはH7N7の弱毒株*註 H2N2、新型インフルエンザ等感染症の病原体 （「厚生労働大臣が定める三種病原体等及び四種病原体等」（平成19年厚生労働省告示第202号）に規定されるものに限る）
Influenza A virus [2)]
Inffuenzavirus B
Influenza B virus
Inffuenzavirus C
Influenza C virus
Papillomaviridae
Papillomavirus
Human papillomavirus
Paramyxoviridae
Avulavirus
Newcastle disease virus[1)]
Metapneumovirus
Human metapneumovirus (hMPV)
Morbillivirus
Canine distemper virus
Measles virus
Pneumovirus
Human respiratory syncytial virus
Murine pneumonia virus (Pneumonia virus of mice)

Respirovirus

Human parainfluenza virus 1

Human parainfluenza virus 3

Sendai virus[1)]

Rubulavirus

Mumps virus

Human parainfluenza virus 2

Human parainfluenza virus 4

Parvoviridae

Erythrovirus

B19 virus

Parvovirus

Canine parvovirus
Feline panleukopenia virus
Kilham rat virus (Rat virus)
Lapine parvo virus

Picornaviridae
Cardiovirus
Encephalomyocarditis virus
Saffold virus(SAFV)
Theilovirus
Enterovirus
Human enterovirus A
Human enterovirus B
Human enterovirus C
Human enterovirus D
Poliovirus （ワクチン株を除く）

Hepatovirus
Hepatitis A virus
Kobuvirus
Aichi virus
Parechovirus
Human parechovirus
Rhinovirus
Human rhinovirus A
Human rhinovirus B
末分類
cosa virus

Polyomaviridae
Polyomavirus
BK polyomavirus
JC polyomavirus
Murine polyomavirus
Simian virus 40
Poxviridae
Molluscipoxvirus
Molluscum contagiosum virus
Orthopoxvirus
Cowpox virus
Ectromelia virus (Mousepox virus) [1)]
Monkeypox virus[3)]
Rabbitpox virus
Vaccinia virus（細胞培養痘そうワクチンを除く）
Yatapoxvirus
Tanapox virus
Yaba monkey tumor virus
Reoviridae
Orbivirus

Bluetongue virus

Rotavirus

Rotavirus A

Rotavirus B

Rotavirus C

Rotavirus D

Rotavirus E

Retroviridae

Deltaretrovirus

Primate T- Jymphotropic virus 1 (Human T-lymphotropic virus [1])

Primate T- Jymphotropic virus 2 (Human T-lymphotropic virus [2])

Gammaretrovirus

Feline Jeukemiavirus

Gibbon ape leukemia virus

Murine leukemia virus

Lenti virus

Feline immunodeficiency virus

Simian immunodeficiency virus

Rhabdovor idae

Lyssavirus

Rabies virus (CVS, E RA, F lury Fuenzalida S-51, F uenzalida S同91, Kelev, しEP, Nishigahara, P aris Pasteur, PM, P V, S AD, Vnukovo-32株)

Rabies virus (HEP, R C. HL株)

Vesiculovirus

Vesicular stomatitis Alagoas virus

Vesicular stomatitis Indiana virus

Togaviridae

Alphavirus

Bebaru virus

O 'nyong-nyong virus

Sindbis virus

Rubivirus

Rubella virus

Unassigned-Family

Deltavirus

Hepatitis delta virus

Anellovirus

Torque Teno virus (TTV)

Prions

Mammalian Prions (Agents of Spongiform Encephalopathies)

Scrapie

Bovine spongiform encephalopathy (BSE) [3]

Creutzfeldt-Jakob disease (CJD)[4]

1） 小動物実験を行う場合はABSL3とする（但し、サル類を除く。）

2) H5または H7の強毒株は、除く。

＊註 以下のいずれかの基準に適合するものとする。

1 4 週齢から8 週齢のニワトリに静脈注射した際の死亡率が75 %より低いこと

2 6 週齢のニワトリにおける静脈内接種病原性指数（ＩＶＰＩ）が1.2 以下であること

3 ＨＡ 蛋白の開裂部位にこれまでに確認された強毒型のインフルエンザＡ ウイルスと類似の塩基性アミノ酸の連続配列がないこと

3）動物実験を行う場合で、BSE　prionをマウスに感染させる場合はABSL2とする。ウシ型、ヒト型のprion遺伝子を導入したマウス及びサル類にBSE　prionを感染させる場合は、ABSL3とする。その他の軌物prionの載物実験は個別に考慮する。

4）動物実験を行う場合は　ABSL3とする。

●ＢＳＬ３

Bunyaviridae

Hantavirus

Hantaan virus

Seoul virus

Dobrava-Belgrade virus

Puumala virus

Andes virus

Sin Nombre virus

New York virus

Bayou virus

Black Creek Canal virus

Laguna Negra virus

Phlebovirus

Rift Valley fever virus

Coronaviridae

Coronavirus

Severe acute respiratory syndrome (SARS) coronavirus

Flaviviridae

Flavivirus

Kyasanur Forest disease virus

Omsk hemorrhagic fever virus

Louping ill virus

Murray Valley encephalitis virus Powassan virus

St. Louis encephalitis virus

Tick-borne encephalitis virus

West Nile virus

Yellow fever virus（17D vaccine strainを除く）[5), 6)]

Herpesviridae

Simplex.virus

Cercopithecine herpesvirus[5),6)]　（B　ウイルス）

Orthomyxoviridae

Inffuenzavirus A

Influenza A virus（H5N1 又は H7N7 の強毒株、および新型インフルエンザ等感染症の病原体（「厚生労働大臣が定める三種病原体等及び四種病原体等」(平成19 年厚生労働省告示第 202 号）に規定されるものを除く）

Influenza A virus [71]

Paramyxoviridae

Henipavirus

Nipahvirus [5), 6)]

Hendra virus [5), 6)]

Reoviridae

Coltivirus

Colorado tick fever virus

Retroviridae

Lentivirus

Human immunodeficiency virus 1

Human immunodeficiency virus 2

Rhabdovoridae

Lyssavirus

Rabies virus（CVS, ERA, Flury Fuenzalida S-51, Fuenzalida S-91, Kelev, LEP, Nishigahara, Paris Pasteur, PM, PV, SAD, Vnukovo-32株及びHEP. RC・HL株を除く）

Lagos bat virus, Mokola virus 他

Togaviridae

Alphavirus

Chikungunya virus

Eastern equine encephalitis virus

Getah virus

Mayaro virus

Semliki Forest virus

Venezuelan equine encephalitis virus

Western equine encephalitis virus

5) 診断検査のための少呈培養に限る。それ以外の場合はBSL4とする。

6) 取扱いについては、別途規定のマニュアルに従うこと。

7) H5またはH7の強毒株

●ＢＳＬ４

Arenaviridae

Arena virus

Guanarito virus

Sabia virus

Junin virus

Lassa virus

Machupo virus

Bunyaviridae

Nairovirus

Crimean-Congo hemorrhagic fever virus

Filoviridae

Ebola virus

Ivory Coast ebolavirus

Reston ebolavirus

Sudan ebolavirus

Zaire ebolavirus

Marburg virus

Lake Victoria marburg virus

Poxviridae

Orthopoxvirus

Vario/a virus (major, minor)

・レベル 3

Chikungunya

Colorado tick fever

Hanta virus

Human immunodeficiency（HIV1, 2）

Kyasanur Forest fever

Negishi

Powassan

Rabies（street strain）

Rift Valley fever

Simian Immunodeficiency virus（SIV）

Tick-borne encephalitis

Venezuelan equine encephalitis

・レベル 4

Crimean Congo hemorrhagic fever

Ebola
Herpes B
Junin
Lassa
Machupo
Marburg
Variola（major, minor）
Yellow fever（17D vaccine strain を除く）
注：媒介節足動物を用いる実験の場合は別途個別に考慮する。

２．マイコプラズマ及び細菌
・レベル１
レベル２及び３に属さない細菌で、健常者への病原性がないか低いもの、及び BCG ワクチン株。

・レベル２
Acinetobacter
　　A. baumannii
　　A. calcoaceticus
Actinobacillus
　　A. actinomycetemcomitans
　　A. capsulatus
　　A. equuli subsp. Equuli
　　A. equuli subsp. haemolyticus
　　A. lignieresiii
　　A. pleuropneumoniae
　　A. suis
　　A. ureae
Actinomadura
　　A. madurae
　　A. pelletieri
Actinomyces
　　A. bovis
　　A. israelii
　　A. viscosus
　　Aeromonas

A. hydrophila subsp.anaerogenes

A. hydrophila subsp.hydrophila

A. hydrophila subsp. ranae

A. sobria（毒素株）

A. veronni

Aggregatibactor

A. actinomycetemcomitans

Anaplasma

A. bovis

A. marginale

A. ovis

A. phagocytophilum

Arachnia

A. propionica

Arcanobacterium

A. haemolyticum

Avibacterium

A. paragallinarum

Bacillus

B. anthracis 34F2 株

B. anthracis Davis 株

B. cereus（毒素株）

Bacteroides

B. fragilis

Bartonella

B. alsatica

B. bacilliformis

B. birtlesii

B. bovis

B. capreoli

B. clarridgeiae

B. coopersplainsensis

B. doshiae

B. elizabethae

B. florencae

B. fuyuanensis

B. grahamii
B. heixiaziensis
B. henselae
B. japonica
B. koehlerae
B. queenslandensis
B. quintana
B. rattaustraliani
B. rochalimae
B. schoenbuchensis
B. silvatica
B. taylorii
B. tribocorum
B. vinsonii subsp.arupensis
B. vinsonii subsp.vinsonii
B. vinsonii subsp.berkhoffii

Bibersteinia

B. trehalose

Bordetella

B. avium
B. bronchiseptica
B.holmessi
B. perapertussis
B. pertussis

Borrelia

B. afzelii
B. anserina
B. baltazardii
B. bissettiae
B. brasiliensis
B. burgdorferi
B. coriaceae
B. crocidurae
B. dugesii
B. duttonii
B. garinii subsp. bavariensis

B. garinii subsp. garinii
B. graingeri
B. harveyi
B. hermsii
B. hispanica
B. japonica
B. kurtenbachii
B. latyschewii
B. lusitaniae
B. mayonii
B. mazzottii
B. miyamotoi
B. parkeri
B. persica
B. recurrentis
B. sinica
B. spielmanii
B. tanukii
B. theileri
B. tillae
B. turcica
B. turdi
B. turicatae
B. valaisiana
B. venezuelensis
B. yangtzensis

Brachyspira
B. hyodysenteriae
B. innocens
B. pilosicoli

Branhamella
B. catarrhalis

Brucella
B. anthpori

Burkholderia
B. cepacia

Calymmatobacterium

C. granulomatis

Campylobacter

C. coli

C. fetus subsp. fetus

C. fetus subsp. testudinum

C. fetus subsp. venerealis

C. jejuni subsp. doylei

C. jejuni subsp. jejuni

Capnocytophaga

C. canimorsusnulosa

C. canis

C. cynodegmi

C. gingivalis

C. granulosa

C. haemolytica

C. laesbetteri

C. orchracea

C. sputigena

Cardiobacterium

C. hominis

Christensenella

C. hongkongensis

Chlamydia

C. abortus

C. caviae

C. felis

C. muridarum

C. pecorum

C. pneumoniae

C. psittaci

C. suis

C. trachomatis

Chromobacterium

C. violaceum

Citrobactor

C. freundii

C. rodentium

Clostridioides

C. difficile (Clostridium difficile)

Clostridium

C. argentinense

C. botulinum Toxin A~G

C. butyricum ボツリヌス毒素産生株

C. chauvoei

C. colinum

C. haemolyticum

C. novyi

C. perfringens

C. piliforme

C. septicum

C. sporogenes

C. tetani

Corynebacterium

C. diphtheriae subsp. diphitheriae

C. diphtheriae subsp. lausannense

C. jeikeium

C. kutscheri

C. pseudodiphtheriticum

C. pseudotuberculosis

C. renale

C. ulcerans

Ehrlichia

E. canis

E. chaffeensis

E. equi (Anaplasma phagocytophilum)

E. ewingii

E. muris subsp. eauclairensis

E. muris subsp. muris

E. phagocytophila (Anaplasma phagocytophilum)

E. risticii

Ehrlichia

E. risticii

E. sennetsu

Elizabethkingia

E. anopheles

E. meningoseptica

E. miricola

Enterobacter

E. asburiae

E. cloacae subsp. cloacae

Enterococcus

E. faecalis バンコマイシン耐性株

E. faecium バンコマイシン耐性株

Erysipelothrix

E. rhusiopathiae

E. tonsillarum

Escherichia

E. albertii

E. coli 腸管出血性大腸菌

E. coli 腸管、尿路等で病原性のある株（腸管出血性大腸菌を除く）

Facklamia

F. sourekii

Filobacterium

F. rodentium

Fluoribacter

F. bozemanae

F. dumoffii

F. gormanii

F. hispaniesis

Francisella

F. novicida

F. philomiragia

F. tularensis subsp.holarctica LVS 株

F. tularensis subsp. novicida

F. tularensis subsp tularensis B38 株＝ATCC6223

Fusobacterium

F. necrophorum subsp.necrophorum

F. necrophorum subsp.necleatum

Glaesserella

G. parasuis

Grimontia

G. hollisae

Haemophilus

H. actinomycetemcomitans（Actinobacillus actinomycetemcomitans）

H. aegyptius

H. ducreyi

H. haemolyticus

H. influenzae

H. parainfluenzae

Hathewaya

H. histolytica

Helicobactor

H. bilis

H. bizzozeronii

H. canadensis

H. canis

H. cinaedi

H. feris

H. fennelliae

H. heilmannii

H. hepaticus

H. pullorum

H. pylori

H. salomonis

H. suis

Histophilus

H. somni

Klebsiella

K. aerogenes

K. granulomatis

K. oxytoca

K. pneumoniae subsp.pneumoniae

Laribacter

L. hongkonggenis

Lawsonia

L. intracellularis

Leclercia

L. adecarboxylata

Legionella 全菌種（Legionella-like organisms を含む）

L. anisa

L. beliardensis

L. birminghamensis

L. bozemanae

L. brunesis

L. busanensis

L. cardiaca

L. cherrii

L. cincinnatiensis

L. drancourtii

L. drozanskii

L. dumoffii

L. erythra

L. fairfieldensis

L. fallonii

L. feeleii

L. geestiana

L. gormanii

L. gratiana

L. gresilensis

L. hackeliae

L. impletisoli

L. israelensis

L. jamestowniensis

L. jordanis

L. lansingensis

L. londiniensis

L. longbeachae

L. lytica

L. maceachernii

L. micdadei
L. moravica
L. nagasakiensis
L. nautarum
L. oakridgensis
L. parisiensis
L. pneumophila subsp. fraseri
L. pneumophila subsp.pascullei
L. pneumophila subsp.pneumophila
L. quateirensis
L. quinlivanii
L. rowbothamii
L. rubrilucens
L. sainthelensi
L. santicrucis
L. shakespearei
L. spiritensis
L. steigerwaltii
L. taurinensis
L. tucsonesis
L wadsworthii
L. waltersii
L. worsleiensis
L. yabuuchiae

Leptospira

L. interrogans 全血清型

Listeria

L. ivanovii subsp. inanovii
L. ivanovii subsp. londoniensis
L. monocytogenes

Malacoplasama

M. iowae
M. microti
M. penetrans

Mannheimia

M. haemolytica

Mesomycoplasma

M. bovoculi

M. conjunctivae

M. dispar

M. flocculare

M. hyopneumoniae

M. hyorhinis

M. neurolyticum

M. ovipneumoniae

Metamycoplasama

M. alkalescens

M. arthritidis

M. canadense

M. equirhisis

M. gateae

M. hominus

M. hyosynoviae

M. orcle

M. phocicerebrale

M. salivarium

M. spumans

M. subdolum

Moraxella

M. bovis

M. catarrhalis（Branhamella catarrhalis）

M. ovis

M. saccharolytica

Mycobacterium

M. arosiense

M. asiaticum

M. avium subsp. avium

M. avium subsp. paratuberculosis

M. avium subsp. silvaicum

M. branderi

M. celatum

M. chelonae (Mycobacteroides chelonae)

M. colombiense
M. flabescens (Mycobacteroides flabescens)
M. gastri
M. genavense
M. gordonae
M. haemophilum
M. intracellulare subsp. intracellulare
M. intracellulare subsp. chimaera
M. kansasii
M. leprae
M. lepraemurium
M. malmoense
M. marinum
M. scrofulaceum
M. shimoidei
M. simiae
M. szulgai
M. timonense
M. tuberculosis var. caprae
M. tuberculosis var. microti
M. ulcerans
M. xenopi

Mycobacteroides
M. abscessus subsp. abscessus
M. abscessus subsp. bolletii
M. abscessus subsp. massiliense
M. chelonae
M. saopaulense

Mycolicibactor
M. arupensis
M. nonchromogenius

Mycolicobacterium
M. bacteremicum
M. boenickei
M. farcinogenes
M. flavescens

M. fortuitum subsp. acetamidolyticum
M. fortuitum subsp. fortuitum
M. gadium
M. mageritense
M. monacense
M. neoaurum
M. peregrinum
M. porcinum
M. phocaicum
M. porcinum
M. rhodesiae
M. senegalense
M. sphagni
M. vaccae

Mycoplasma

M. buteonis
M. capricolim subsp. capricolum
M. capricolim subsp.capripneumoniae
M. collis
M. corogypsi
M. crocodyli
M. elephantis
M. falconis
M. feriruminatoris
M. gypis
M. haemocanis
M. haemofilis
M. iguana
M. imitans
M. leachii
M. mobile
M. mycoides subsp. capri
M. mycoides subsp.mycoide V 株
M. ovis
M. phocidae
M. putrefaciens

M. suis
M. testudineum
M. wenyonii
Mycoplasmoides
M. gallispepticum
M. genitalium
M. pneumoniae
Mycoplasmopsis
M. adleri
M. agalatiae
M agassizii
M. alligatoris
M.anatis
M. arginine
M. bovigenitalium
M. bovirhinis
M. bovis
M. californica
M. canis
M. caviae
M. columbinasalis
M. cynos
M. edwardii
M. equigenitalium
M. felis
M. fermentans
M. gallinacea
M. gallinarum
M. gallopavonis
M. glycophilla
M. iners
M. lipofaciens
M. maculosa
M. meleagridis
M. phocirhinis
M. primatum

M. pullorum
M. pulmonis
M. sturni
M. synovaie
M. verecunda
Necropsobactor
N. rosorum
Neisseria
N. gonorrhoeae
N. meningitidis
Neorickettsia
N. helminthoeca
N. risticii
N. sennetsu
Nocardia
N. abscessus
N. amamiensis
N. amikacinitolerans
N. aobensis
N. arthritidis
N. asteroids
N. beijingensis
N. brasiliensis
N. concave
N. cyriacigeorgica
N. elegans
N. farcinica
N. harenae
N. niigatensis
N. nova
N. otitidiscaviarum
N. paucivorans
N. puris
N. vinacea
Paeniclostridium
P. sordelli

Pasteurella

P. aerogenes

P. multocida subsp. gallicida

P. multocida subsp. multocida

P. multocida subsp. septica

Photobacterium

P. damselae subsp. damselae

Plesiomonas

P. shigelloides

Porphyromonas

P. gingivalis

Prevotella

P. baroniae

Proteus

P. mirabilis

P. penniri

P. vulgaris

Providencia

P. rettgeri

Pseudomonas

P. aeruginosa

Rhodococcus

R. hoagii

Riemerella

R. anatipestifer

R. columbina

Rodentibactor

R. pneumotropicus

Rothia

R. dentocariosa

Salmonella

S. bongori

S. enterica subsp. anzonae

S. enterica subsp. diarizonae

S. enterica subsp. enterica all serovars（下記、および S. enterica subsp. enterica serovars Typhimurium（TA98 株、TA100 株、TA1535 株、LT2 株）、S. enterica

subsp. enterica serovar Paratyphi A、S. enterica subsp. enterica serovars Typhi、S. enterica subsp. enterica serovars　Thypi TY21a を除く）

S. enterica subsp. enterica serovars Gallinarum

S. enterica subsp. enterica serovars Pullorum

S. enterica subsp. houtenae

S. enterica subsp. indica

S. enterica subsp. salamae

Serattia

S. liquefaciens

S. marcescens

S. rubidaea

Shigella

S. boydii

S. dysenteriae

S. flexneri

S. sonnei

Simkania

S. negevenis

Staphylococcus

S. aureus subsp. anaerobius

S. aureus subsp. aureus

S. hyicus

S. lugdunensis

Stenotrophomonas

S. maltophilia

Streptobacillus

S. moniliformis

Streptococcus

S. acidominimus

S. agalactiae

S. anginosus subsp. anginosus

S. anginosus subsp. whilleyi

S. canis

S. constellatus subsp. constellatus

S. constellatus subsp. pharynges

S. constellatus subsp. viborgensis

S. dysgalactiae subsp. dysgalactae
S. dysgalactiae subsp. equisimilis
S. equi subsp. equi
S. equi subsp. ruminatorum
S. equi subsp. zooepidemicus
S. halichoeri
S. intermedius
S. parasanguinis
S. pneumoniae
S. porcinus
S. pyogenes
S. ruminantium
S. sanguinis
S. sinensis
S. suis
S. uberis

Tannerella
T. forsythia

Tatlockia
T. maceachernii （別名 Legionella maceachernni）
T. micdadei （別名 Legionella micdadei）

Taylorella
T. equigenitalis

Treponema
T. carateum
T. denticola
T. pallidum
T. paraluiscuniculi
T. pertenue
T. whipplei

Trueperlla
T. abortisuis
T. bernardiae
T. bialowiezense
T. bonasi
T. pyogenes

Ureaplasma

U. parvum

U. urealyticum

Vibrio

V. cholerae コレラトキシン非産生株

V. cholerae 血清型 serovar non 01

V. cholerae serovar O1、O139

V. cincinnatiensis

V. fluvialis

V. furnissii

V. metschnikovii

V. mimicus

V. parahaemolyticus

V. vulnificus

Waddlia

W. chondrophila

Yersinia

Y. enterocolitica subsp. enterocolitica

Y. enterocolitica subsp. palearctica

Y. frederiksenii

Y. intermedia

Y. pseudotuberculosis

1）大量に増殖させる場合はレベル 3 とする。

＊ 動物実験においては別途考慮する。

・レベル 3

Bacillus

B. anthracis

Brucella

B. ceti

B. inopinata

B. melitensis biovar. Melitensis

B. melitensis biovar. Abortus

B. melitensis biovar. Canis

B. melitensis biovar. Neotomae

B. melitensis biovar. Ovis

B. melitensis biovar. Suis

B. miceoti
B. papionis
B. pinnipedialis
Burkholderia
B. mallei
B. pseudomallei
Coxiella
C. burnetii
Francisella
F. tularensis subsp.holarctica
F. tularensis subsp.mediasiatica
F. tularensis subsp. tularensis
Morococcus
M. cerebrosus
Mycobacterium
M. tuberculosis 多剤耐性株
M. tuberculosis var. tuberculosis
M. tuberculosis var. africanum
M. tuberculosis var.bovis（BCG 株を除く）
Mycoplasma
M. mycoides subsp.mycoide (V 株を除く)
Orientica
O. tsutsugamishi
Rickettsia
R. aeschlimannii
R. africae
R. akari
R. amblyommatis
R. australis
R. bellii
R. canadenis
R. conorii subsp. conorii
R. conorii subsp. heilongjiangensis
R. conorii subsp. raoultii
R. felis
R. gravessi

R. helvetica
R. honei
R. japonica
R. massiliae
R. parkeri
R. prowazekki
R. rhipicephali
R. rickettsii
R. sibirica
R. slovaca
R. typhi

Salmonella

S. enterica subsp. enterica S. serovar paratyphi A
S. enterica subsp. enterica S. serovar Typhi
S. enterica subsp. enterica serovars Thypi TY21a

Yersina

Y. pestis

３．真菌

・レベル１

レベル２，３に属さない真菌

・レベル２

Arthroderma

A. uncinatum

Aspergillus

A. flavas
A.fumigatus
A. lentulus
A.nidurans (Emericella nidulans)
A. nigar
A. niger clade
A. terreus
A. viridinutans
A. viridinutans species-complex

Candida

C. albicans (C. stellatoidea、. Africana)

C. auris
C. glabrata (Nakaseomyces glabratus)
C. guilliermondii (Meyerozyma guilliermondii)
C. kefyr (Kluyveromyces marxianus)
C. krusei (Pichia kudriavzevii)
C. lusitaniae (Clavispora lusitaniae)
C. parapsilosis
C. tropicalis

Cladosporium
C. carrionii

Cryptococcus
C. bacillisporus
C. decagattii
C. deneoformans
C. deuterogattii
C. gatti (C. gatti species complex)
C. neoformas
C. tetragattii

Expophiala
E. dermatitidis

Fonsecaea
F. pedrosoi
F. monophora

Fusarium
F. oxysporum

Kluyveromyces
K. marxianus

Meyerozyma
M. guilliermondii (Candida guilliermondii)

Microsporum
M.audouinii
M. canis
M. duboisii
M. ferrugineum
M. fulvum
M. gallinae

Mucor

M. racemosus

Nannizia

N. gypsea

N. lorica

N. nana

N. persicolor

Neocosmospora

N. solani (Fusarium solani)

Paraphyton

P. cookei

Phialophora

P. verrucosa

Pichia

P. kudriavzevii (Candida krusei)

Pneumocystis

P. carinii

Rhizomucor pusillus

Rhizopus

R. arrhizus (Rhizopus oryzae)

R. microspores

R. stolonifer

Scedosporium

S. apiospermum

Sporothrix

S. schenckii

S. globose

Trichophyton

T. ajelloi var. ajelloi

T. concentricum

T. erinacei

T. equinum

T. mentagrophytes species-complex

T.mentagrophytes/ T. interdigitale species-complex

T. rubrum

T. rubrum species-complex

T. schoenleinii
T. tonsurans
T. vanbreuseghemii
T. verrucosum
Trichosporon
T. asahii
・レベル３
Blastomyces
B. dermatitidis
Cladophialophora
C. bantiana
Coccidioides
C. immitis
C. posadasii
Emmonsiella
E. capsulata
Histoplasma
H. capsulatum ＊
H. farciminosum var. farciminosum
Paracoccidioides
P. brasiliensis
Penicillium
P. marneffei (Talaromyces marneffei)
Rhinocladiella
R. mackenziei
Talaromyces
T. marneffei

＊ H. capsulatum var capsulatum と H.capsulatum var duboisii の両 variant を含む。
注 Aspegillus spp. , Chaetomium spp. , Fusarium spp. ,
Myrothecium spp. , Penicillium spp.の毒素産生株はレベル２扱いとする。

４．寄生虫
( )のついている寄生虫については，（)内を規制の対象とする発育期とし，それ以外の発育期は，規制の対象としない。( )がついていない寄生虫については全発育期を対象とする。
・レベル１

レベル２に属さない原虫類、吸虫類、条虫類及び線虫類
・レベル２
・人体寄生性原虫類
Acanthamoeba spp.
Cryptosporidium spp.（oocyst）
Entamoeba spp.
Giardia intestinalis
Leishmania spp.
Naegleria spp.
Plasmodium spp
Toxoplasma gondii
Trichomonas vaginalis
Trypanosoma spp.
・人体寄生性吸虫類
吸虫類の被嚢幼虫
Schistosoma spp.（cercaria）
・人体寄生性条虫類
Echinococcus spp.（egg, hydatid, sand, protoscolex）
Hymenolepis spp.（egg, cysticercoid）
Taenia solium（egg, cysticercus）
・人体寄生性線虫類
鉤虫類の感染仔虫
Ascaris spp.の仔虫包蔵卵
Angiostrongylus spp.（感染仔虫）
Strongyloides spp.（感染仔虫）
Trichinella spiralis（感染仔虫）

・レベル３
なし
上記レベル２に指定された寄生虫のうち Leishmania spp. Trypanosoma spp. 及び Plasmodium spp. の媒介昆虫を用いた感染実験，Schistosoma spp. Angiostrongylus spp. 等の媒介貝を用いた感染実験，並びに Toxoplasma gondii, Echinococcus granulosus 及び E.multilocularis を用いた本来の終宿主での感染実験においては，通常の微生物学的操作で感染を防御する。しかし, 伝播者或いは終宿主が排出する嚢子, 卵, 幼虫等を扱う場合には, 別途指定の実験施設を使用しなければならない。
[媒介動物を用いての感染実験]

媒介昆虫を用いた Leishmania spp. , Trypanosoma spp. , 及び Plasmodium spp.の感染実験にあたっては, 媒介昆虫は完備した飼育用昆虫ゲージに入れ, 二重の密閉扉を有する実験室内で行う。
また, 媒介貝を用いた Schistosoma spp. , Angiostrongylus spp.等を感染実験に当たっては実験貝は完備した飼育装置内で飼育する。さらに実験終了後は使用水及び装置を熱処理しなければならない。
[終宿主を用いての感染実験]
T. gondii 感染のネコ, E. granulosus 感染及び E. multilocularis 感染のイヌ等を用いた実験に際しては完全な屎尿処理を行い得るケージを用いて排泄物の処理を行う。実験終了後はケージ並びに実験室を熱湯処理しなければならない。

別表２

微生物を用いる実験室の安全設備及び実施要項

Ｐ１〔実験室の安全設備〕

1 整備された通常の微生物実験室と同じ程度の設備を備え，かつ，設計が成されていること。（特別の隔離の必要はない。）

〔実験実施要項〕

1 一般外来者の立入りを禁止する必要はない。

2 実験中，実験室の窓及び扉は閉じておくこと。

3 実験台は，毎日，実験終了後消毒すること。また，実験中汚染が生じた場合には，直ちに消毒すること。

4 すべての廃棄物は，廃棄の前に滅菌すること。その他の汚染された機器等は，洗浄，再使用及び廃棄の前に消毒又は滅菌すること。

5 機械的ピペットの使用が望ましい。

6 実験室内での飲食，喫煙及び食品の保存はしないこと。

7 微生物を取り扱った後，及び実験室を出るときは，手を洗うこと。

8 すべての操作においてエアロゾルの発生を最小限にするよう注意を払うこと。

9 実験室の昆虫，げつ菌類等の防除をすること。

10 実験室内では，実験着等を着用し，退室時にはこれを脱ぐこと。

11 実験室は，常に整理し，清潔に保つこと。

12 その他実験責任者の定める事項を遵守すること。

Ｐ２〔実験室の安全設備〕

1 実験室は，汚染物及び廃棄物の処理のための高圧滅菌器を備えた建物内に置くこと。

2 微生物の処理を行うため，ブレンダー，凍結乾燥器，超音波細胞破砕装置，遠心分離機等のエアロゾルが大量に発生しやすい機器を使用するときには，汚染エアロゾルが外部に漏出しないように工夫すること。

3 キャビネットを使用する場合は安全キャビネットが望ましい。なお，キャビネットの性能は必要に応じて検査すること。

〔実験実施要項〕

1 実験中は，一般外来者の立ち入りを禁止する。

2 実験中，実験室の窓及び扉は閉じておくこと。

3 実験台及び安全キャビネットは，毎日，実験終了後消毒すること。また，実験中汚染が生じた場合には，直ちに消毒すること。

4 微生物を含むすべての廃棄物は，廃棄の前に滅菌すること。その他の汚染された機器等は，洗浄，再使用及び破棄の前に消毒又は滅菌すること。

5 機械的ピペットを使用すること。

6 実験室内での飲食，喫煙及び食品の保存はしないこと。

7 微生物を取り扱った後，及び実験室を出るときは，手を洗うこと。
8 エアロゾル発生のおそれのある実験は生物学的安全キャビネットの中で行うこと。
9 実験室の昆虫，げつ菌類等の防除をすること。
10 他の方法がある場合には，注射器の使用は避けること。
11 実験室内では，実験着等を着用し，退室時にはこれを脱ぐこと。
12 実験が進行中の場合には，Ｐ２レベル実験中の表示を実験室の入口に掲げること。
13 実験室は，常に整理し，清潔に保つこと。
14 その他実験責任者の定める事項を遵守すること